

第4回 商工センター地区まちづくりビジョン検討会 議事要旨

1 検討会名称

第4回 商工センター地区まちづくりビジョン検討会

2 開催日時

令和6年8月27日(火) 午後2時00分～3時40分

3 開催場所

広島サンプラザ2階 銀河の間
(広島市西区商工センター三丁目1番1号)

4 出席者

(1) 委員(委員9名中9名出席)

(2) 事務局

都市整備局 都市機能調整部商工センター地区活性化担当 担当部長、担当課長、ほか関係職員
(関係部局等)

市民局	スポーツ振興課長
経済観光局	次長、経済企画課長、雇用推進課長 商業振興課長、 観光政策部長、MICE 戦略担当課長 新市場建設担当課長
都市整備局	都市計画課長
道路交通局	道路計画課長 鉄軌道担当課長
西区	建設部長

5 議題

まちづくりの将来像と基本コンセプトについて

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者8名

8 検討会資料名

次第

委員名簿

資 料 まちづくりの将来像と基本コンセプトについて（たたき台）

別 紙 MICE 関連施設に導入する機能等について

参考資料 交通施設の現況

9 各出席者の発言の要旨

事務局

それでは、第4回商工センター地区まちづくりビジョン検討会を開会する。

戸田（常）座長

議題「まちづくりの将来像と基本コンセプトについて」は内容が多岐に渡るため、3つのコンセプトごとに分けて進行したいと思う。まずは資料1ページ目の「まちづくりの進め方」から2ページ目「コンセプト1 MICE 施設の新設」までについて事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料の1ページから2ページ及び別紙に沿って説明)

戸田（常）座長

ただ今の説明について御質問、御意見をいただきたい。

南浦委員

MICE 施設（展示場）の面積が6,000 m²とあるが、これは他都市と比べるとどここの施設と同じくらいの規模か。

事務局

政令市では一室当たり6,000 m²の全く同規模の展示場はないが、同等の規模を有する展示場ということであれば、仙台市の夢メッセみやぎが7,500 m²、静岡市のツインメッセ静岡が5,400 m²、札幌市のアクセスサッポロが5,000 m²、京都市のみやこめっせが4,000 m²、神戸市の神戸国際展示場が3,800 m²となっている。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

西本委員

資料1ページ目の右下「本市における MICE 施設（展示機能）の必要性や望ましい立地の考え方」について、これまでの検討会の議論の内容を網羅されたものとなっているので良いと思う。

基本コンセプトの1つ目、「MICE 施設の新設」については、「既存の MICE 施設の規模・機能を拡充したものを新設することによって地区全体の魅力向上を図る。」ということは、既に世界の様々な都市で先行して行っており、例えばシンガポールが独立する際に国際会議展示場とそれを取り巻くコンテンツを作ることで国家の発展に非常に寄与したという実績もあるため、今回の検討が、商工センター地区はもとより広島市全体の経済発展につながっていくものと確信している。

資料2ページ目の表で、第1段階は10年、第2段階は15年と具体的な説明があったが、足並みをそろえて検討を進めるとされている草津漁港周辺については、いつまでの整備を検討しているのか。

また、民間投資についてはどのように考えているのか。

事務局

第1段階の MICE 施設の整備については、市場のにぎわい施設の整備と歩調を合わせながら、概ね 10 年内の完了を見込んでいる。第2段階のホテル等の整備については、まちづくりの一環として MICE 施設を整備することで民間投資を誘発し、概ね 15 年以内に完了したいという見込みを立てているところである。

西本委員

民間投資を呼び込むためには、MICE 施設の新設だけでなく、草津漁港周辺のにぎわいづくりも大きな要因になってくると思う。今後も引き続き2つのプロジェクトの足並みをそろえて検討を進めていただきたい。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

戸田（祐）委員

西本委員の御意見に関連して、第1段階で草津漁港周辺を整備するのであれば、資料にその旨記載してわかりやすくした方が良いのではないか。

事務局

草津漁港周辺には市場のにぎわい施設も含まれており、こののにぎわい施設が今後 10 年以内に完了することと歩調を合わせながら、第1段階として MICE 施設の整備を考えている。市場のにぎわい施設まで言及した資料とするかどうかは今後検討させていただきたい。

戸田（常）座長

市場のにぎわい施設については、現在検討を進めているところであり、一定の目途がついた段階で資料に落とし込むことになるという理解でよいか。

事務局

現在、具体化に向けた検討をまさに進めているところであり、にぎわい施設の整備内容が具体化した段階で記載できればと考えている。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

奥野委員

MICE 施設の会議室について約 800 m²という数字が出ているが、これは何人規模の会議ができる大き

さになるのか。

事務局

特に定まった計算方法等はないが、例えば1㎡当たり1人ということであれば、800人規模ということになる。

また、今回のMICE施設の展示室については、以前西本委員から御意見いただいたように、分割できるようにすることで、展示室の一部を会議室としてフレキシブルに利用することも可能となると考えている。

さらに、資料2ページ目の第1段階では広島サンプラザの宴会場も会議室として利用できるため、規模の大きな会議を開催することも可能であると考えている。

奥野委員

資料2ページ目の第3段階では、更に大きな会議も開催できるようにMICE施設の拡張も検討されるということで、将来的に世界的な会議や学会が開催できるようになれば良い施設になると思う。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

伊藤委員

資料2ページ目の第1段階は良いのだが、第2段階について、ホテル等の機能が解体した中小企業会館（総合展示館）の場所ではなく、わざわざ中小企業会館（本館）を解体した場所に持ってきている意図は何か。第2段階で総合展示館のところにホテル等を整備し、第3段階で本館の場所にサンプラザのホール機能をもってくれば、新しい展示場との距離も近くなるので良いと思う。

事務局

中小企業会館（本館）の位置にホテル等を整備することとしている一番大きな理由は、ホテル等とMICE施設ができるだけ近い方が良いのではないかということであるが、今後、委員からの御意見も含めて対応を検討させていただきたいと考えている。

伊藤委員

ホテルの利用者は催事主催者になると思うが、市場のにぎわい施設の利用者の需要も合わせて満たすことを考えるのであれば、ホテル等を南側に整備する考え方もあるのではないかと思う。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

湯蓋委員

別紙の資料にはMICE関連施設のハード面を中心に記載されているが、これまで商工センター地区

活性化検討会 MICE 部会等で議論されてきたのは、むしろソフト面である情報発信機能をどのように高めていくかという点であったかと思う。日常的な企業との連携などこれまでにない MICE 施設の機能として、情報発信機能についてももう少し触れた方が良いかと思うがどうか。

事務局

これまでも様々な情報発信機能について御議論いただいていたところであるが、別紙の「6 その他」の部分で地域の魅力などの情報発信機能について記載させていただいている。委員御提案のソフト面の検討についても、今後検討を深めていきたいと考えている。

戸田（常）座長

ほかに御質問等がなければ、続いて資料3ページ目の「コンセプト2 交通機能の強化」について事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料の3ページ及び参考資料に沿って説明)

戸田（常）座長

ただ今の説明について、御質問、御意見をいただきたい。

南浦委員

乗降場の整備や駐輪場の増設、バリアフリー化等の課題について、湯蓋委員も含め地域の方々から要望をいただいている。駅にはまとまった土地がないので、公共用地を活用して、例えば公園の一部を道路と入れ替えて乗降場にするとか、下水道施設の上部を活用するなどの検討を西区において進めているところである。将来的には、まとまった土地が必要になってくるのではないかと思うがどうか。

事務局

「駅等の交通機能の強化」の「駅舎等の改良」の3つ目に「さらに、将来的には、様々な交通モードにおける結節機能の集約を目指す」としている。この部分について、現在の駅には駅前広場が整備されておらず、駅周辺にそのような空間を確保しにくい状況であるため、将来的な課題として、駅の交通結節機能の強化を図っていきたいと考えている。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

伊藤委員

地域経済サミットの意見として、この地区に MICE 施設を整備することについて全く反対はないが、ここが交通渋滞地域になるのではないかということをお心配しており、地区内の渋滞緩和のための手法の一つとして、やはり広島南道路の全線開通が必要であると思っている。3ページ目の「周辺地域と

のアクセス改善」について触れていただいているが、この書き方では「継続的に国に要望する」という弱々しい書き方なので、もっと強く何かやるぞというような表現にしてもらいたい。

事務局

この資料はたたき台なので今後調整させていただくが、やはり国の事業という前提があるので、本市としてどこまで踏み込んだ記載ができるか検討させていただきたい。

戸田（祐）委員

御存知のように広島南道路は国の事業なので、要望するに当たって、この商工センター地区でこのようなまちづくりをしていくんだということの一つ加えれば、国へのアピールにつながると思う。良いまちづくりをされているなど国からも思ってもらえるようなビジョンをしっかりと作っていければ、国に響くものになるのではないかと思う。

西本委員

ここに MICE 施設を設置した場合は、日本全国や世界から様々な方が来られることになるが、その際の交通の出発点はあくまで広島空港や広島駅になってくると思う。今後検討を進めていく中で、広島空港と広島駅、商工センター地区、草津漁港を結ぶような定期路線を作ることで、外部からの投資に対して売り込みやすくなるなど様々な効果が出てくるのではないか。

戸田（常）座長

「周辺地域とのアクセス改善」の「陸上交通」には、道路のこのみ触れられているため、広島空港や広島駅からのアクセスについてももう少し力を入れる必要があるのではないか、逆にまちづくりを通じて広域的な交通体系を構築していったらどうかという御意見である。

戸田（祐）委員

「循環交通の導入」のところに、本市が進めている広島型公共交通システムの構築という記載があり、これは息の長い取組になると思うが、このような考えを周辺地域とのアクセス改善の中にもしっかりと取り込み、例えば広島南道路の上にバスを走らせるといったことも考えられる。

また、海の玄関となる草津漁港は非常に重要だと思っており、中心部から船でアクセスできるようになれば、非常に魅力がある地区といえる。

さらに、「ペDESTリアンデッキの延長」は、港側から見れば商工センター中心へのアクセス向上につながるため、まちづくりをしていく上で、港周辺をきちんとやっていくというスタンスは非常に重要ではないかと思う。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

戸田（祐）委員

「スマートモビリティ」に記載しているような交通DX・GXを推進していくには、技術がどこまで進歩するかにもよるが、商工センター地区に来れば他では乗ることができない乗り物があるというような視点を入れると、まちづくりの一つの売りになるのではないかと思う。

戸田（常）座長

ほかに御質問等がなければ、続いて資料4ページ目の「コンセプト3 賑わいの創出」から5ページ目「基本コンセプトの全体図」までについて事務局から説明をお願いします。

事務局

（資料の4ページから5ページに沿って説明）

戸田（常）座長

ただ今の説明について、御質問、御意見等をいただきたい。

西本委員

4ページ目右側の「草津漁港の観光港化」に向けて参考となるのが、香川県の高松港である。最近、最高級ランクの外資系ホテルの参入が決まり、高松港と直島それぞれにホテルが設置されると聞いている。それらを結ぶことによって、自然とアートに関心を持つ富裕層が長期滞在する、しまなみ観光の拠点となりうる。

資料の海上ネットワークのイメージは日本人好みの観光地を列挙していると思うが、もう少しインバウンドの視点を入れて、広島を訪れるインバウンドの外国人が、どのようなところに船で行ってみたいのかとの意向も踏まえて、行先にバリエーションを持たせてはどうかと思う。

事務局

インバウンドや富裕層向けの観光施策をどのようにしていくのかということについては、本市の観光施策の課題の一つでもある。まだビジョンを策定していない中で、外国人の意向を具体的に確認することは難しいところもあるが、委員御指摘のインバウンドや富裕層向けの視点も加えながら、観光港化後の具体的なルートや行先などについて、関係自治体等とも協議しつつ、良いものにしていきたいと考えている。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

南浦委員

「公共空間の活用によるにぎわいづくり」の西部周遊緑地の再整備については、西区としても取り組んでいくことを過去の検討会でも発言してきたが、現状は回遊性がないと認識している。井口川までいけば桜並木があり、以前に湯蓋委員から御意見のあった海岸沿いにも緑地があるので、将来的には、なんとか回遊性を持たせるように整備し、パーソナルモビリティなども活用して回遊できるよう

になれば良いと思う。

また、区役所では現在でも公共空間を活用して、地域や商業施設と連携したイベントなどを行っているので、さらに活用できる空間が整備されれば、今後も活用していきたい。

事務局

公共空間の活用によるにぎわいや商業施設との連携イベントをとりまとめていく中で、この地区には既に多くのイベントが行われており、そのような素地がある地域だということを改めて認識した。

関係者にヒアリングをする中で、今後このようなビジョンができるのであれば、更に連携を深め、開催頻度を上げてやっていきたいといった声もいただいているため、前向きに検討していきたい。

戸田（常）座長

ほかに御質問等はないか。

湯蓋委員

交通機能の話に戻るが、空港へのアクセスとなると広島空港をイメージするが、地域の人に聞くと、岩国錦帯橋空港を活用する人が非常に多い。広域都市圏という意味では広島空港だけでなく岩国錦帯橋空港からのアクセスも視野に入れる必要があるのではないかと思う。

にぎわいについては、地域住民としては人の動線が非常に気になっている。企業や店舗に行く方はペDESTリアンデッキを通るが、日常生活者は1階部分を通るので、1階部分と2階部分をどう繋げていくかということを考えないといけない。また、緑道は歩道橋で接続されており、自転車や車椅子での上り下りが難しいので、誰も通っていない。アルパーク周辺の緑道については、別の使い道もあるのではないかという意見が地域にはあり、MICE 施設の整備にあわせて、新たなにぎわいにつなげていくような活用方法を何か考えてもらいたい。

事務局

岩国錦帯橋空港の活用については、資料1 ページ目の右上の図に記載しているように、東側が広島空港、西側が岩国錦帯橋空港をイメージしているものであり、このような立地はほかにはみられないと認識しているところである。先程御説明したバス路線の中には、広島空港行きのバスが社会実験で運行されており、今後ビジョンを具体化していく中で、社会実験から定期路線に変わっていくことが期待できないか、将来的に岩国錦帯橋空港からのアクセスについても確保できないかということも考えていきたい。

また、緑道の活用については、資料の中でたまり空間や憩い空間の整備も含めた再整備と記載している。現時点では、人の流れが具体的にイメージできる状況ではないため、今後具体化していく中で、ただの緑道ではなく、MICE 施設との連携も図れるような、相乗効果が期待できるような活用策を一緒に考えていきたい。

戸田（常）座長

湯蓋委員いかがか。

湯蓋委員

回遊性を求めるのであれば緑道の整備だけではなく、例えば、東西を走っている幹線道路の歩道も整備して一体的な回遊性を高め、宿泊する方が散歩できるなど、商工センター地区の良さを再確認していただけるようなものを求めてもよいのではないかと思う。

戸田（常）座長

ほかに御意見、御質問はないか。

資料の5ページにあるように、最終的にはこのように三つの柱が重なって、下の図のような将来像になる。そしてコンセプト1と2と3が相互に影響し合うことになる。難しいかもしれないが、例えば、先ほどの第1段階、第2段階、第3段階、それぞれの段階でどのような将来像になるのか作図があってもよいと思うがどうか。

事務局

本日御提示した MICE 施設の新設については、前回から引き続いて検討を進めており、第1段階、第2段階、第3段階の形がある程度手順が見えてきているところである。これに付随するものとして、交通やにぎわいなど考えているところであるが、どこまでのものが第1段階、第2段階というように分けて書くことができるかという点、曖昧な部分がでてくる。

まちづくりの基本的な構造となる MICE 施設とホテルまでを具体化させるということで、今回のビジョンをとりまとめていきたいと現時点では考えているが、座長の御指摘を踏まえてどのように対応できるか考えさせていただきたい。

戸田（常）座長

不確定な部分も多々あり、難しいことは承知の上聞いたものである。

それでは、全体を通して、御質問、御意見、御感想をいただきたい。

秋田委員

MICE 施設に関する御意見については、ビジョンに反映させていくものとビジョン策定後の具体的な整備に向けて詰めていくものがあるが、検討会を重ねていく中で、この地区に MICE 施設をつくらうという総意が形成されつつあると思う。

また、MICE 施設だけでなく市場のにぎわい施設、規制緩和、水産振興センターの更新についても密接な関係性があるため、縦割りのような形にならないよう多様な視野を持って、関係者の意見を踏まえながら取り組んでいきたい。

西野委員

将来像等をたたき台という形でお示しし、様々な御意見をいただいた。内容としてはまとまりつつある中で、まとまってきたからこそ新たな御意見も出てきていると考えており、本日いただいた御意見を今後のビジョン策定やビジョン策定後の取組の具体化にいかしていければと思う。

戸田（祐）委員

本市の広島型公共交通システムについて、現在は先行的にバスでの取組を進めているが、将来的には全ての交通モードでシームレスな乗り継ぎや利用者にとって使いやすい交通システムをつくるのが理想である。商工センター地区内にも交通システムを構築するためには、当然、事業者の協力が欠かせないため、しっかり連携しながら取り組んでいきたい。

また、まちづくりの進め方において、交通は「共通基盤の構築」に入ってくるため、そこはしっかりやりつつ、大切なのはコンセプト3のにぎわいの創出のところだと思う。にぎわいづくりにおいては、地域や企業の方も一緒に取り組んでいただき、楽しい、面白い、やってみたいと思えるようなものにしていかないと将来的に長続きしないだろうし、ビジョンの中にもしっかり組み込んでおく必要があると思う。

南浦委員

西区としては、MICE 施設が整備されて地域がより良くなっていけばありがたいと考えており、こうした MICE 施設の整備にあわせて、地域の方々と意見交換しながら、戸田（祐）委員が言われたように、楽しくにぎやかで長続きするような、より良いまちづくりを一緒に進めていきたいと考えている。

奥野委員

経済界としては、市内中心部と商工センター地区との連携を将来的にしっかりと考えていく必要がある。交通や宿泊等において市内中心部と連携する取組を進めていくことが、商工センター地区のにぎわいの創出につながってくるのではないかと考えている。

伊藤委員

市場のにぎわい施設や MICE 施設が今後 10 年で整備されるということになると、ペDESTリアンデッキの延伸も含めた交通等の環境整備を進めていかないと既存の事業者が困るのではないと思う。

また、現在、約 4,000 人規模のイベントで約 2,500 人の方が J R 新井口駅を利用するというのであれば、MICE 施設の稼働により、10,000 人規模のイベントが開催された場合、約 5,6,000 人の方が J R 新井口駅を利用することになる。その場合、利用者はペDESTリアンデッキ上で待機することになるため、我々広島商工センター地域経済サミットの「街づくり提案」のように J R と広電による共同の空間を整備する方向で調整していただきたい。

湯蓋委員

井口、井口台、鈴が峰といった北側の地域の方からは、南側だけでなく北側を含めた一体的な駅周辺の整備の要望が出ており、今回の説明では、北側の地域の利用者にも配慮されたものとなっているので非常にありがたいと思っている。

西本委員

例えば、新しい MICE 施設に MICE を誘致するための英語の企画提案書を作る場合、「商工センター」

の英語表記がどのようなものになるか調べてみたが何も出てこない。MICE を軸に考えた場合に、再ブランディングが必要ではないかと考えている。例えば日本を代表する MICE 施設の「パシフィコ横浜」のように、「パシフィコ横浜」と聞けば潮風が吹き、カモメが鳴いているようなイメージがわかりやすいネーミングを取り入れるなど、今後商工センター地区を担っていく若い世代の方々が中心となって、この地域をどのようにブランディングしていくかといった検討を進める時期に来ていると考えている。

戸田（常）座長

委員全員から御意見をいただいた。

まちづくりビジョンとして、まとまりつつあるという御意見や、西本委員からグローバルな視点や人を引き付けるようなブランディングを考える時期に来たという御意見があった。

これまで、検討会を4回開催し、「まちづくりビジョン素案」取りまとめに必要な事項については、概ね御意見をいただけたのではないかと思う。事務局はこれまでの御意見を踏まえて、「まちづくりビジョン素案」を第5回検討会の資料として提示し、次回はその素案をもとに意見交換を行いたい。

市場との関係について、今回は事務局から断片的な説明はあったが、第5回検討会の素案にはどの程度盛り込む予定か。

事務局

現在、場内事業者と調整をしており、今の段階では明確な回答はできない。

戸田（常）座長

状況を見て判断することとする。

第5回検討会の開催はいつ頃の予定か。

事務局

次回の日程については調整させていただきたい。検討会については基本的には3か月から4か月に一度のペースでの開催を考えている。

戸田（常）座長

事務局から連絡事項があればお願いしたい。

事務局

本日も多くの御意見をいただき感謝する。

この度、まちづくりの全体像という形で示しているのは、まず基本的なまちづくりの構造について、MICE 施設も含め10年から15年で行い、その後、地区の事業者又は民間投資によって、さらに商工センター地区を発展させていくという考え方である。

このようなまちづくりを進めていく上で、関係者の御理解と御協力が非常に重要であると考えており、今後取りまとめるまちづくりビジョンは基本的な段取り感の共通認識を得られるような内容にし

たいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

戸田（常）座長

それでは、第4回商工センター地区まちづくりビジョン検討会を閉会する。
ありがとうございました。